

114
A 3605



我輩ハ去ル十日ノ「ジツハン」ハラルト新聞ヲ閱シ大ニ驚歎スル者
即チ洋銀ニ形ハ確固トシテ信任ス可キ者トシ我カ横濱第二國
立銀行ヨリ發行スル洋銀手形ハ疑フ可ク信ス可カラサ
辨シ且ツ甚シキハ我カ第二銀行ニハ洋銀券ノ交換ニ應ス可キ
正弗ノ準備ラ欠乏セリト明言セリハラルト記者ノ篤實温厚ナル
ヲ以テ斯ノ如ク突然我カ銀行ニ法ヲ奪ラ與フル者ハ思フニ記者ノ
誤聞ニ係ルカ或ハ我カ銀行ヲ敵視スル外國人ノ誣言ヲ輕信セシ
出ツルヤフレ我輩ハ却テ記者ガ推察力ノ短縮トシテ其眼眸ノ眩迷
易キニ既歎セスバアラカルナリ

夫レ我カ銀行ノ銀券
ハ即チ百弗券ヲ

即チ券ヲ発スレハ即チ十弗ノ洋銀
ハ即チ百弗ノ洋銀 倉庫ニ備フ

黄寶

第二國立銀行

大正十一年四月
大隈

4177



如テ流通高ニ應

準備ノ洋銀ハ累々トノ庫内ニ充

積ニ繼ハ母也幾可

望ハ多アルモ発行銀券ニ應スル丈

耐絶セサルハ固ヨリ言フヲ待タサルナリ若シ其虚實ニ明知セシト欲

ハ日々大藏省ニ呈スル報告及ヒ毎周横濱新聞紙ニ廣告スル表面ニ

就テ之ヲ檢スレバ瞭然シテ明カナリ我カ銀行計算上ノ整頓スル

斯ノ如ク明瞭ナルニヘラルト記者ハ突然我銀券ハ信ス可カラズ我

銀券ニ應スル正弗準備ナシト明言スル者ハ定メテ去月下旬ニ於

テ我カ銀行ト取引シタル一条ヨリ出テシテラレ果シテ是一条ヨリ出テ

タル者ト假信セバヘラルト記者ハ其道理ヲモ明ニセス其事情

サル者ト云フ今其時ノ事情ヲ掲出シテ之ヲ世人ニ公示ス可

去月下旬(明治二十年六月廿日)ニ於テ六十二番ハレコレシヤガハイ銀行ハ

我カ振出シタル銀券ヲ持參シ我カ銀行ト双方差引消ノ上正弗

出万弗録ラフヤガハイ銀行ハ渡スノナリナリキ時既ニ午後

正時ニ及ハズ先テ何ニカ都合モアリシマヌモ日暮ニ近キ為メナラシ

全額ノ内三万弗封印致シ持歸リタシト申聞ケタレモ余リ大額ノ事故

其願望ヲ拒ミ悉皆鑑定致ス可シト申向ケタリ然ルニ其時鑑定

人犬ニシルノ色ヲ見ハレ其時鑑定ヲ始メ同八時羊項ニ至リ漸ク

鑑定ヲ終ヘ乃チ列三千弗計リヲ出シ我ニ向ヒ引替ヲ

時早八時羊ヲ過ケタレハ我ガ役負ノ者一名残りシノミ皆テ歸宅

致シ且ツ金庫モ既ニ封鎖シタルハ其事情ヲ述ヘ申断リ是迄ノ

習慣(平生ニ三千弗位相互ニ封印シテ持歸ルハ習慣ナリ)ニ因リ封印シテ

持歸ル可ク申向ケタレモ其夜ニ限リ鑑定人承諾セス彼是爭論ノ上

遂ニ八國人延連シ未リ種々論談ノ末先方預合主任ノ者ノ言願ニハ

先方ニモ向後深更ニ及バ列ノ洋銀アルモ何程額ニテモ善

正弗入帳ニテハ申向ケタリ然レモ第一國立銀行ニテハ

其時ニ及ハズ先テ何ニカ都合モアリシマヌモ日暮ニ近キ為メナラシ

黄寶

第二回五銀行

然ルヲ突然

日價ヲ破リタルハ第三回 銀行於テ

大ニ滿

以テ一應 接 三任ノ外國人ノ確約シ午

後十二時頃支那人立合上倉庫ヲ閉キ勿正ガ一交際致シ其場ハ

清ミタシ事アリキ

ヘラルバ新聞ニシテ石叢ノ怨憤ヨリ出テタル投書ヲ採用スルカ或ハ
是等覺ノ易キ道理ヲ了解スル能ハスシテ斯ル論説ヲ掲載
バシ者ナラバ我輩ハ「ヘラルト」記者ノ為ニ息ヲ取ラサルナリ世人能
ク其事情ヲ察スリ「ヘラルト」記者ノ誣書ヲ誤信シ我カ洋銀券ニ
向テ不信ヲ置ク勿レ